



2026年6月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2026年2月13日

上場会社名 株式会社オーケーウェブ 上場取引所 名
コード番号 3808 URL <https://okwave.co.jp/>
代表者（役職名） 代表取締役社長（氏名） 杉浦 元
問合せ先責任者（役職名） 経営管理担当執行役員（氏名） 石川 修（TEL）03(6823)4306
半期報告書提出予定日 2026年2月13日 配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無 : 有
決算説明会開催の有無 : 有

（百万円未満切捨て）

1. 2026年6月期第2四半期（中間期）の連結業績（2025年7月1日～2025年12月31日）

（1）連結経営成績（累計）（％表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年6月期中間期	134	36.5	△80	—	△86	—	△89	—
2025年6月期中間期	98	24.8	△81	—	△81	—	△79	—

（注）包括利益 2026年6月期中間期 △89百万円（—％） 2025年6月期中間期 △79百万円（—％）

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2026年6月期中間期	△1.80	—
2025年6月期中間期	△1.96	—

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年6月期中間期	1,837	518	25.8
2025年6月期	1,725	372	18.9

（参考）自己資本 2026年6月期中間期 474百万円 2025年6月期 325百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年6月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2026年6月期	—	0.00	—	—	—
2026年6月期（予想）	—	—	—	0.00	0.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2026年6月期の連結業績予想（2025年7月1日～2026年6月30日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益	
	百万円	%	百万円	%
通期	300～500	27.8～ 113.0	△100～1	—

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当中間期における連結範囲の重要な変更 : 有
新規 1社 (社名) 株式会社メディアリメイク 、除外 一社 (社名) ー

(2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2026年6月期中間期	50,482,504株	2025年6月期	46,034,804株
② 期末自己株式数	2026年6月期中間期	86株	2025年6月期	86株
③ 期中平均株式数 (中間期)	2026年6月期中間期	49,757,250株	2025年6月期中間期	40,729,018株

※ 第2四半期 (中間期) 決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 中間連結貸借対照表	4
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	6
中間連結損益計算書	6
中間連結会計期間	6
中間連結包括利益計算書	7
中間連結会計期間	7
(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等の注記)	10
(重要な後発事象)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当中間連結会計期間では、デジタルサンクスカード「GRATICA」は、主にマーケティング強化と機能改善・新機能開発に注力してまいりました。当期首よりマーケティングへの投資を開始し、リード獲得から商談、受注、カスタマーサクセスといった一連のプロセスの見直しを行ったことにより、平均顧客単価が改善し、前年同期を上回る着地となりました。また、機能改善については、資本業務提携先であるabc株式会社の開発力も活用しながら進めております。Q&Aコミュニティ「OKWAVE」と連携した「OKWAVE Plus」は、当中間連結会計期間より、顧客企業のカスタマーサポート領域における課題をより改善できるように、SaaSツールの提供のみならずメディアもあわせて活用した新たなサービスパッケージの提供を開始したこともあり、一部解約があったものの前年同期とほぼ同水準での着地となりました。生成AIが急速に普及している世の中において、当社独自の提供価値を再定義して事業開発を進め、継続収益を積み上げていくことに注力してまいります。また、純広告を中心としたメディアサービスは、2025年4月に受託したabc株式会社のWebプロモーション業務の役務提供が中心となりますが、順調に進行しており、前年同期を大きく上回る着地となりました。

以上のほか、株式会社メディアリメイクの新規連結による売上高の貢献もあり、当中間連結会計期間の売上高は134,751千円（前年同期比36,046千円増）となりました。

営業損益におきましては、支払報酬や株式報酬費は前年同期比で減少したものの、新規採用による採用費及び人件費の増加や株式会社メディアリメイクの株式取得にかかる取得関連費用の発生等により、総コスト（売上原価と販管費の合計）は214,758千円（前年同期比34,279千円増）となりました。売上高は増加したものの、事業拡大のために、人材採用やM&Aの投資を行っていることもあり、営業損益は前年同期とほぼ同水準の営業損失80,006千円（前年同期は81,773千円の営業損失）となりました。

経常損益におきましては、当中間連結会計期間では、株主代表訴訟対応等の臨時的弁護士費用等の発生が継続しており、経常損失86,849千円（前年同期は81,887千円の経常損失）となりました。また、当期は特別利益として、従業員の退職に伴う新株予約権戻入益2,144千円が発生しました。これらの結果、親会社株主に帰属する中間純損失89,701千円（前年同期は79,960千円の親会社株主に帰属する中間純損失）を計上しております。

(2) 財政状態に関する説明

① 財政状態の分析

(資産)

当中間連結会計期間末の総資産は、1,837,630千円（前連結会計年度末比112,298千円増）となりました。これは主に、現金及び預金が29,193千円、売掛金が14,993千円、2025年10月に株式取得した株式会社メディアリメイクの新規連結によりのれんが13,802千円増加したこと等によるものであります。

(負債)

当中間連結会計期間末の負債総額は、1,318,875千円（前連結会計年度末比33,938千円減）となりました。これは主に、前受金が11,513千円、長期前受金が15,680千円減少したこと等によるものであります。

(純資産)

当中間連結会計期間末における純資産は、518,754千円（前連結会計年度末比146,236千円増）となりました。これは主に、増資により資本金及び資本剰余金がそれぞれ118,798千円増加したことと親会社株主に帰属する中間純損失により利益剰余金が89,701千円減少したこと等によるものであります。

② キャッシュ・フローの状況

当中間連結会計期間末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末と比べ29,193千円増加し、571,503千円となりました。

当中間連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当中間連結会計期間における営業活動によるキャッシュ・フローは、180,578千円の支出（前年同期は2,290千円

の収入)となりました。これは主に、税金等調整前中間純損失の計上84,705千円、前受金の減少14,794千円、長期前受金の減少15,680千円等によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当中間連結会計期間における投資活動によるキャッシュ・フローは、25,936千円の支出(前年同期は82,985千円の支出)となりました。これは連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出25,936千円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当中間連結会計期間における財務活動によるキャッシュ・フローは、235,728千円の収入(前年同期は7千円の支出)となりました。これは株式の発行による収入によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2026年6月期の通期連結業績予想につきましては、2025年8月14日に公表した「2025年6月期 決算短信」に記載の数値から変更はありません。今後、業績予想に関して修正の必要が生じた場合は、速やかに開示いたします。

2. 中間連結財務諸表及び主な注記

(1) 中間連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年6月30日)	当中間連結会計期間 (2025年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	542,309	571,503
売掛金	16,132	31,125
前払費用	11,099	12,076
その他	10,546	66,894
貸倒引当金	—	△50
流動資産合計	580,087	681,549
固定資産		
有形固定資産		
工具、器具及び備品	1,281	1,456
減価償却累計額	△1,281	△1,394
工具、器具及び備品(純額)	0	61
有形固定資産合計	0	61
無形固定資産		
ソフトウェア	2,672	1,951
のれん	73,820	87,622
その他	0	0
無形固定資産合計	76,492	89,574
投資その他の資産		
投資有価証券	42,937	43,563
差入保証金	712	719
長期貸付金	60,987	61,046
破産更生債権等	4,933,032	4,933,032
長期未収入金	115,789	120,800
繰延税金資産	8,245	5,246
貸倒引当金	△4,092,954	△4,097,965
投資その他の資産合計	1,068,751	1,066,444
固定資産合計	1,145,243	1,156,080
資産合計	1,725,331	1,837,630

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2025年6月30日)	当中間連結会計期間 (2025年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	3,414	4,421
未払金及び未払費用	220,068	214,501
未払法人税等	10,030	7,175
前受金	67,125	55,612
仮受金	1,017,058	1,017,075
その他	7,116	7,768
流動負債合計	1,324,813	1,306,555
固定負債		
長期前受金	28,000	12,320
固定負債合計	28,000	12,320
負債合計	1,352,813	1,318,875
純資産の部		
株主資本		
資本金	150,922	269,720
資本剰余金	1,994,993	2,113,791
利益剰余金	△1,808,903	△1,898,605
自己株式	△85	△85
株主資本合計	336,927	484,821
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△9	617
為替換算調整勘定	△11,018	△11,041
その他の包括利益累計額合計	△11,027	△10,424
新株予約権	46,618	44,357
純資産合計	372,517	518,754
負債純資産合計	1,725,331	1,837,630

(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書

中間連結損益計算書

(単位:千円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年7月1日 至 2024年12月31日)	当中間連結会計期間 (自 2025年7月1日 至 2025年12月31日)
売上高	98,705	134,751
売上原価	63,163	62,933
売上総利益	35,541	71,818
販売費及び一般管理費	117,314	151,824
営業損失(△)	△81,773	△80,006
営業外収益		
受取利息	24	404
為替差益	—	211
未払配当金除斥益	2,725	—
雑収入	2,275	83
営業外収益合計	5,026	698
営業外費用		
為替差損	97	—
支払手数料	202	71
支払報酬	3,638	7,470
雑損失	1,201	—
営業外費用合計	5,140	7,541
経常損失(△)	△81,887	△86,849
特別利益		
新株予約権戻入益	—	2,144
和解金収入	4,000	—
特別利益合計	4,000	2,144
特別損失		
関係会社清算損失引当金繰入額	1,403	—
特別損失合計	1,403	—
税金等調整前中間純損失(△)	△79,291	△84,705
法人税、住民税及び事業税	669	1,997
法人税等調整額	—	2,998
法人税等合計	669	4,996
中間純損失(△)	△79,960	△89,701
非支配株主に帰属する中間純損失(△)	—	—
親会社株主に帰属する中間純損失(△)	△79,960	△89,701

中間連結包括利益計算書

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年7月1日 至 2024年12月31日)	当中間連結会計期間 (自 2025年7月1日 至 2025年12月31日)
中間純損失(△)	△79,960	△89,701
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△158	626
為替換算調整勘定	251	△23
その他の包括利益合計	92	602
中間包括利益	△79,867	△89,098
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	△79,867	△89,098
非支配株主に係る中間包括利益	—	—

(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年7月1日 至 2024年12月31日)	当中間連結会計期間 (自 2025年7月1日 至 2025年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純損失(△)	△79,291	△84,705
減価償却費	712	721
のれん償却額	5,056	7,113
株式報酬費用	13,228	1,751
新株予約権戻入益	—	△2,144
受取利息	△24	△404
為替差損益(△は益)	2	△10
未払配当金除斥益	△2,725	—
関係会社清算損失引当金の増減額(△は減少)	1,403	—
和解金収入	△4,000	—
売上債権の増減額(△は増加)	1,603	△6,497
前払費用の増減額(△は増加)	18,509	△977
仕入債務の増減額(△は減少)	121	1,007
未払金及び未払費用の増減額(△は減少)	△1,340	△6,421
未払又は未収消費税等の増減額	13,042	398
前受金の増減額(△は減少)	17,763	△14,794
預り金の増減額(△は減少)	1,109	△802
長期前受金の増減額(△は減少)	—	△15,680
その他	14,162	△58,861
小計	△666	△180,306
利息の受取額	24	404
和解金の受取額	4,000	—
法人税等の支払額	△1,067	△1,011
法人税等の還付額	—	336
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,290	△180,578

(単位:千円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年7月1日 至 2024年12月31日)	当中間連結会計期間 (自 2025年7月1日 至 2025年12月31日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△89,091	△25,936
差入保証金の回収による収入	6,105	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	△82,985	△25,936
財務活動によるキャッシュ・フロー		
株式の発行による収入	—	235,728
配当金の支払額	△7	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	△7	235,728
現金及び現金同等物に係る換算差額	250	△19
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△80,451	29,193
現金及び現金同等物の期首残高	273,052	542,309
現金及び現金同等物の中間期末残高	192,600	571,503

(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

当社グループは、2020年6月期以降営業損失の状況が継続しており、2021年6月期以降については親会社株主に帰属する当期純損失も継続して計上している状況にあります。当中間連結会計期間では、営業損失80,006千円、経常損失86,849千円及び親会社株主に帰属する中間純損失89,701千円を計上し、営業キャッシュ・フローは180,578千円のマイナスとなりました。このような状況から継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。

当該状況を解消するために、当社グループは、下記の通り収益構造の改善及び財務基盤の安定化に取り組んでおります。

①収益構造の改善

2025年8月14日に発表した中期経営計画に基づき、事業成長の確実性が高い分野へリソースを再配分することで、営業損益及び営業キャッシュ・フローの向上を図ってまいります。また、引き続き不要なコストを徹底的に削減してまいります。

②M&Aの実施による収益構造の改善

2024年7月に株式会社オープンサイトの全株式を取得し、2025年10月には株式会社メディアリメイクの全株式を取得しましたが、今後もM&Aで収益力のある企業・事業をグループ化することにより、当社グループの事業展開を加速させるとともに、営業損益及び営業キャッシュ・フローの向上を図ってまいります。

③財務基盤の安定化

当社グループは、運転資金の安定的な確保と維持に向け、コスト削減の徹底と子会社の解散・清算を進めてまいりました。今後もグループ内の資金を最大限に有効活用していくべく、取引金融機関等に対しても、引き続き協力を頂くための協議を進めていくとともに、必要に応じてエクイティファイナンスの検討も行なってまいります。

しかしながら、当中間連結会計期間において80,006千円の営業損失、営業キャッシュ・フローも180,578千円のマイナスの状況であることから、現時点においては、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

なお、中間連結財務諸表は継続企業を前提として作成されており、継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を中間連結財務諸表には反映しておりません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当中間連結会計期間において、第24回新株予約権の権利行使による新株発行により、資本金及び資本剰余金がそれぞれ118,798千円増加しております。

その結果、当中間連結会計期間末において資本金が269,720千円、資本剰余金が2,113,791千円となっております。

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前中間連結会計期間(自 2024年7月1日 至 2024年12月31日)

当社グループは単一セグメントであるため、記載を省略しております。

II 当中間連結会計期間(自 2025年7月1日 至 2025年12月31日)

当社グループは単一セグメントであるため、記載を省略しております。

（重要な後発事象）

該当事項はありません。